

水草等対策技術開発支援事業実績

採択年度	平成 30 年度	事業者名	国土防災技術株式会社
補助事業名	フルボ酸を利用した沈水植物等の水草の肥料化実験		
補助事業結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内実験において水草の種類毎の減容率や肥料成分の溶出状況の確認試験を実施した結果、すべての水草で減容のピークが1ヶ月程度であることが分かった。 ・ 水草を漬水させたフルボ酸の全体的な傾向として、pH がやや上昇して EC 値が上昇することや、窒素分の溶出は少ないものの、P や Ca、Fe、Mn の溶出が顕著となっていることを確認した。 ・ 野外実験においては、水草を表層刈取部と根こそぎ刈取部に分けてフルボ酸に浸水させて減容化試験を実施した結果、いずれも室内試験よりやや低い減容率となったがバラツキは比較的少ないことを確認した。 		
<p>本年度（令和元年度）の状況</p> <p>・ 技術開発等の状況を含む</p>	<p>平成 31 年度（令和元年度）水草等対策技術開発支援事業の採択を受け、引き続き純国産フルボ酸を利用した沈水植物等の水草の肥料化実験を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表層刈取部フルボ酸溶液、根こそぎ刈取部フルボ酸溶液ともに 2000 倍の希釈倍率が適切であることを確認した。 ・ フルボ酸よりも木酢液の方が水草の重量の減少が顕著となり、減容化を促進する効果があることが分かった。 ・ 肥料成分の溶出については、全てのサンプルで 11 日養生した時点で EC 値（電気伝導度）は低下する傾向があることが分かった。表層刈取部では K₂O、CaO、Mn の溶出量が多く、根こそぎ刈取部については K₂O、CaO、Mn だけでなく Fe の溶出量が多いことが分かった。 		
備考			